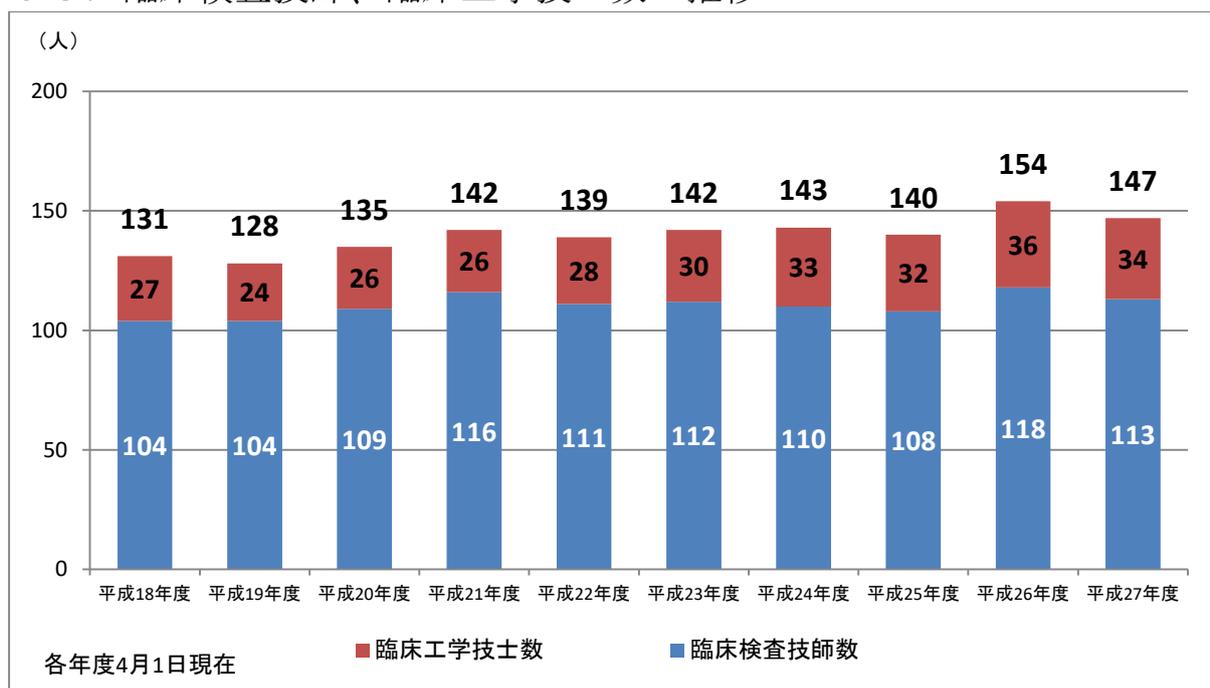


### 9 3. 臨床検査技師、臨床工学技士数の推移



医療現場におけるチーム医療の一員である臨床検査技師は、採血を行ったり、その採取した血液を分析し診療の一助とする検体検査、また心電図などの生理検査などを主な業務とする。一方、臨床工学技士は、病院内に設置される医療機器の安全運用を確保するための保守点検、血液透析や手術室・集中治療室などでの生命維持管理装置などの操作を行うことで医師の治療サポートを主な業務としている。患者サービスの観点において多くのスタッフを配置することにより、検査分野では、検体検査の迅速性・分析精度の向上、結果報告時間の短縮、生理検査では、患者サービスの向上、検査待ち時間の短縮などが期待できる。また、工学分野においては、医療機器を中央管理し適正なメンテナンスを定期的に行うことにより医療安全の向上、適正な医療機器の使用の推進、機器運用を効率化することにより無駄な機器を排除し減少させるなど病院経営への関わりも大きい。

臨床検査技師数はここ数年大きな変化はないが、臨床工学技士数は手術件数の増加は元より、管理する医療機器の増加や日々進化する医療機器に対応し、安全な医療環境を整備するため徐々に増加傾向にある。

データ提供 臨床検査部